

公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 基本方針

島根ブロック協議会 会長 木下 淳

<p><b>ブロック協議会 理想の未来</b></p>	<p>個の成長が光り輝き 皆が誇れる島根の創造 美しい自然、古き良き文化、歴史、特色ある地域資源などの魅力を有する島根は、インフラ整備も進み交流人口の増加など大きな可能性を秘めていますが、人口面、経済面での課題が顕著に見受けられます。先人から受け継いだこの地域を私たちの子どもたちに、もっと良い未来を、もっと良い地域を残していくため、島根ブロック協議会が成長のプラットフォームとなり、メンバーが地域を牽引するリーダーとしての資質を高め個が今より光り輝き、皆が誇れる島根となっている未来を創造します。</p>
<p><b>ブロック協議会の 役割</b></p>	<p>島根ブロック協議会では、会員の減少による地域の発展に必要なリーダーの減少及び青年経済人のネットワークの脆弱化に瀕しています。島根ブロック協議会は LOM との連絡調整を図り、メンバーの成長と発展の機会を創出します。そして地域で活躍するリーダーを一人でも多く輩出し、共に地域課題を解決するために LOM を支援します。</p>
<p><b>ブロック連携事業 (政策手法)</b></p>	<p>1.地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究</p> <p>【背景】 各地域には独自の課題や魅力が存在していますが、これらが十分に発掘・活用されておらず、地域間の連携も不足していることが多いです。</p> <p>【目的】 地域間の連携を強化し、地域の魅力を最大限に引き出し、全国に広めることで、地域の活性化と魅力向上を図ります。</p> <p>【手法】 より質の高い運動を展開できるよう、各 LOM からヒアリングを行いブロック大会の中で LOM の事業を発表し共有します。また、課題の解決に繋がる本会の事業を調査したものを、島根ブロックナイトの中で発表を行い、本会と LOM を繋げる橋渡しをするとともに開催の支援と協力を行います。</p> <p>2.地域に眠る活用しきれしていない資源の調査・発掘・研究</p> <p>【背景】 多くの地域には未活用の資源が存在しますが、これらが適切にいかされておらず、経済的利益や環境保全の機会が損なわれています。</p> <p>【目的】 地域に眠る未活用資源を効果的に活用し、経済活動と環境保全を両立させるモデルを構築することを目指します。</p> <p>【手法】 地域資源の調査を行いブロック大会の記念事業として地域の可能性を発掘し発信します。</p> <p>3.誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援</p> <p>【背景】 JC 組織が地域社会に対して持続的に貢献するためには、組織改革と運動の質の向上が不可欠です。</p> <p>【目的】 JC プログラムを活用し、地域社会に貢献する運動を加速させ、誇れる組織への改革を進めます。</p> <p>【手法】 アカデミー事業の中で JC プログラムを活用し、各 LOM メンバーの資質を向上することでより良い LOM の運動に繋がるよう支援します。</p> <p>4.ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用</p>

	<p><b>【背景】</b> JCメンバーの価値観が統一されていない現状では、組織の一体感や活性化が難しい状況にあります。</p> <p><b>【目的】</b> JCメンバーが共通の価値観を持ち、組織のリーダーシップを発揮できるような人財を育成することで、組織を前進させます。</p> <p><b>【手法】</b> アカデミー事業を通してLOMを越えた新たな横の繋がりを構築し、切磋琢磨することで新たな刺激と知見を分かち合う場を提供します。</p> <p>5.理念共感グランドデザインの検証</p> <p><b>【背景】</b> 中期計画の最終年度を迎え、これまでの進捗状況や成果を総括し、理念共感の拡大状況を把握する必要があります。</p> <p><b>【目的】</b> 理念浸透サーベイを通じて、理念共感の拡大状況を把握し、最終年度に向けた目標達成を促進します。</p> <p><b>【手法】</b> 各LOMへのアンケートを実施し、中期計画の検証を行い2026年度以降のより良い運動に繋がります。</p>
<p><b>ブロック協議会 独自の事業</b></p>	<p>1.第51回島根ブロック大会の実施</p> <p><b>【背景】</b> 島根ブロック協議会が今後ますます発展、成長するために関係各所とお互いの理念や運動に対し、改めて理解を深め合い、より連携を強めていく必要があります。また、JCの理念を基とした地域課題解決のための運動を発信する場として各LOMの協力を仰ぎ、繋がりを強固にしたうえで、LOMの活動、運動にさらなる活力を与えられる大会とする必要があります。</p> <p><b>【目的】</b> 皆が誇れる島根の創造のために、意識の統一と高揚につなげます。またJCの存在意義を共有し結束を深め、より強固な組織へ成長することを目的とします。</p> <p><b>【手法】</b> 第51回島根ブロック大会記念式典を開催し、一体となって力強い運動ができるよう意識の統一と高揚につなげます。また記念事業として地域に眠る活用しきれていない資源を新たな視点で発掘し発信することで、地域の新たな可能性を見出すとともに地域経済の活性化を図ります。</p> <p>2.次代へ繋げる竹島問題に関する意識の醸成</p> <p><b>【背景】</b> 次代を担う子どもたちにより良い未来を残していくためには地域の課題を解決する必要があります。戦後から竹島問題を抱え、実効支配された現状に対して県民の意識調査では関心が低下している現状があります。</p> <p><b>【目的】</b> 次代にもっと良い未来を残していくために、まずはブロックメンバーの意識をさらに高くするとともに、周りの人の意識を変革することのできる人財となることを目的とします。</p> <p><b>【手法】</b> 有識者による講演を実施し、国家の主権者として正しい知識と意識の醸成を図ります。</p> <p>3.島根ブロックナイトの開催</p> <p><b>【背景】</b></p>

	<p>島根ブロック協議会と各 LOM の繋がりを強固にし、共に運動を展開していくために本会及び島根ブロック協議会の施策の浸透と一年間の事業の理解を深める必要があります。</p> <p><b>【目的】</b> 島根ブロック協議会のメンバーが一堂に会する場を設け、島根ブロック並びに本会の事業施策と事業目的の浸透を目的とします。</p> <p><b>【手法】</b> 本会の基本理念、基本方針の説明と島根ブロック協議会の基本理念、基本方針、組織、各委員会の事業の説明を実施し、メンバーへの理解と浸透を図ります。</p> <p>4.LOM 支援の実施</p> <p><b>【背景】</b> 島根ブロック協議会では、会員数減少が顕著な課題であり、現状を放置すれば数年以内に解散もしくは消滅の可能性のある LOM があります。LOM の発展には、青年会議所の魅力を発信する運動に取り組んでいく必要が有りますが、運動実施に対する課題が山積しています。島根ブロック内で多くの運動を展開するためには LOM とブロック協議会が情報共有を行い一丸となって問題解決していく必要があります。</p> <p><b>【目的】</b> LOM 及び島根ブロック協議会が持続可能で皆が誇れる組織へと昇華することを目的とします。</p> <p><b>【手法】</b> 各 LOM と情報共有を行い拡大情報の共有と成功手法の共有を行うとともに活発な拡大運動に繋がります。また一年を通して LOM の課題の解決に繋がる本会の事業を調査し LOM とのマッチングを行います。</p>
<p><b>ブロックによる LOM 支援の実施内容</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.情報共有体制を確立し、LOM、地域課題に対して役立つ情報を共有する</li> <li>2.災害時の迅速な情報共有と連携した支援活動を展開する</li> <li>3.ブロックアカデミー事業の開催による個々が成長できる機会を提供する</li> </ol>